同窓会
ニューズ・レター
第12号
大阪大学
文学部
文学研究科
同窓会
2013年3月20日発行

文学部・文学研究科創立六十五周年記念
同窓会総会・懇親会の開催について

2013年9月14日に大阪大学文学部・文学研究科は創立六十五周年を迎えます。
つきましては、以下のような日程、場所で同窓会総会・懇親会の開催を企画しております。

開 催 日：2013年9月22日（日）
開催場所：大阪大学会館　アセンブリーホール

詳しい予定などは、追ってご連絡申し上げます。楽しいひと時になりますよう、
これから準備に励みたいと思いますので、ご参集のほどよろしくお願い申し上げます。

〒560-8532　豊中市待兼山町1-5　大阪大学文学部・文学研究科同窓会
URL　http://www.let.osaka-u.ac.jp/dousou/　E-mail　dousoukai@let.osaka-u.ac.jp

◆ごあいさつ

最近の文学研究科・文学部のことなど

文学研究科長　永田　靖

近年、文学研究科・文学部は国際化に力を入れております。二〇〇八年から始まったエラスムス・ムンドゥス・マスタープログラムは軌道に乗り、毎年順調に実施しております。二〇一一年秋からはフルパートナーとしていわば「格上げ」されることになり、ヨーロッパ単位互換制度による提供単位数も十五ECTSから二十五ECTSに増えることになりました。この留学生への支援として、同窓会の皆様にもご寄附いただいております奨学寄附金「教育ゆめ基金」を使わせて頂いております。

また二〇一〇年から日本学術振興会に採択された二つのプログラム「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」と「頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」は二〇一二年度末で終了の予定です。前者では学生・院生などを含む延べ一四三名の若手研究者を中短期派遣に、後者は一年間の長期派遣プログラムで延べ六名の院生を海外に派遣し、学生諸君の国際性の涵養に大いに役立ったと確信しております。

後継のプログラムも着々と準備が進んでいます。まず研究拠点としてふさわしい実績を上げた研究科に対する「卓越した大学院拠点形成支援補助金」が、文学研究科文化形態論専攻に、また人間科学研究科と共同で文化表現論専攻にも与えられることになりました。芸術系ブロックでも昨年のいわゆる「劇場法」制定を機会に文化庁や文部省への補助金等申請を準備中です。

もう一つ朗報があります。文学研究科の本館がすでに耐震改修工事を終えているのはご存じと思われますが、本館の隣の、かなり老朽化が進んでいた美学研究室棟の耐震改修工事もついに開始されることとなりました。およそ半年間の工事期間を経て、来年秋には改修後の新しい芸術研究棟を皆様にご披露できると、今から楽しみにしております。

ながた・やすし
1957年生まれ。専門は演劇史演劇学。上智大学外国語学部ロシア語学科卒、明治大学大学院演劇学専攻博士課程単位取得。1998年より本学勤務。IFTR国際演劇学会理事、日本演劇学会理事。最近の共著に *Adapting Chekhov*, Routledge, *The Local meets the Global in Performance*, Cambridge など。

退職される先生からのメッセージ

◆大阪大学を退職するにあたって

英語学　大庭　幸男

私は昭和五十八年に山口大学教養部から大阪大学言語文化部に異動になり、そこで八年間勤めた後、平成三年に文学研究科に配置換えになった。文学研究科では、二十二年間英語学研究室で研究活動と学生指導に従事し、本年三月に退職することになった。

定年前の退職であるが、これを決意するにはいくつかの理由があった。一番大きな理由は、英文科のスタッフ事情である。英文科では、玉井暲教授退職後の三年間、採用人事をすることができなかった。私は定年退職まで二年あるが、このまま定年まで勤めると五年間人事が凍結状態になる。折しも、私大転出の話があったので、この際後進に道を譲るべきだと判断し、退職を決意した。幸いにして、昨年採用人事が滞りなく進み、四月には新進気鋭の研究者が英文科のスタッフに加わることになった。

しかし、一方では、英語学研究室の専任スタッフが岡田禎之教授一人になってしまう。学部生や大学院学生が多数いるので、同教授の負担が大きくなるのではないかと心配している。さらに、岡田教授は国際連携室の室長のほかに文化動態論の教授も兼ねることになるので、その不安はさらにつのる。兼任の加藤正治教授と神山孝夫教授の更なるサポートにより、この状況を何とか乗り切っていただきたい。

私は四月から私大で研究活動と学生指導に従事することになるが、昨年十二月の日本英語学会会長選挙で会長に選出されたので、その職も務めなければならない。日本英語学会は、日本認知言語学会、日本語用論学会、英語語法文法学会、近代英語協会、日本音声学会、日本音韻論学会、日本英語表現学会などの各種学会を包摂する、この分野では一番大きな学会である。一昨年三月に副研究科長の任が終わったので少しゆっくりしようと思っていたが、四月からこれまで以上に緊張の状態が続くと思われる。また、本学会の事務局長を引き受けてくださった岡田教授に更なる負担をかけることになるので、たいへん申し訳ないと思っている。

おおば・ゆきお
福岡県生まれ。九州大学文学部卒業。九州大学大学院文学研究科修士課程修了。専門は英語学、特に、生成文法理論。日本英語学会理事。日本英文学会理事。著書に『英語構文研究』(英宝社)、『左方移動』(研究社)、『英語構文を探求する』(開拓社)など。博士(文学)(大阪大学)。

特集

世界とつながる文学部・文学研究科

海外同窓会の現状

大阪大学は、大学のグローバル化の流れに沿って、二〇〇六年から世界の四都市（サンフランシスコ、グローニンゲン、バンコク、上海）に海外拠点を設け、国際的な教育研究活動のサポートや拠点地区の同窓会活動の支援に力を注いでまいりました。その結果、これまでに四つの海外同窓会が発足し、現在活発な活動を続けています。このうち二〇〇六年に発足した「大阪大学北米同窓会」は会員数五五一名で、最も大きな組織です。NY地区、ワシントンDC地区、シカゴ地区、LA地区、SF地区の五地区体制で組織され、年一回の年次総会の他、随時各地区において講演会、交流会、歓送迎会などが開催されています。同じ年に設立された「タイ大阪大学同窓会」は二番目に大きく、会員数は三一八名。文学研究科・文学部留学生十七名と日本人四〇名が含まれています。同年設立の「大阪大学上海同窓会」は会員数約八〇名。二〇一一年に設立された「大阪大学欧州同窓会」は会員数二三一名で、四カ国（英、仏、伊、蘭）の地区同窓会が活発に活動しています。

こうした状況から、海外拠点による同窓会活動支援が大きな成果をあげてきたことが分かりますが、一方、海外拠点のない地域でもさまざまな阪大同窓会が組織されていることが伝わってきています。今回ご紹介する韓国大阪大学文学部同窓会もそのような組織の一つです。お便りくださった黄さんに心から御礼申し上げます。文学部・文学研究科同窓会は、これからも留学生の皆様の帰国後のご活躍や同窓会活動に注目してまいりたいと思っています。情報提供等、皆様のご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

河上　誓作（かわかみ・せいさく）
阪大文学部助手、九大助教授、阪大助教授・教授を経て、2004年名誉教授。この間文学研究科評議員、研究科長を歴任。2004年神戸女子大学教授、2005年学長、2012年名誉教授。専門は英語学。著書『認知言語学の基礎』他。

▼韓国大阪大学文学部同窓会の活動

一．会員

金泰定（韓國外大）、林八龍（韓國外大）、鄭秀賢（東國大）、李漢燮（高麗大）、許晃會（한밭大）、姜錫元（東國大）、任榮哲（中央大）、高正道（慶北大）、李吉遠（東亞大）、李楨淑（新羅大）、崔杉昌（慶北大）、魯成煥（蔚山大）、張相彦（釜慶大）、鄭相哲（韓国外大）、權勝林（崇實大）、朴在勳（又石大）、丁意祥（朝鮮大）、姜錫祐（カトリック大）、金容儀（全南大）、金慶燕（淑明女大）、李美林（聖潔大）、申智淑（啓明大）、吳玹定（建國大）、任苔均（聖潔大）、司空煥（韓國放送通信大）、李吉鎔（中央大）、エレンナカミズ（ソウル大）、楊昌洙、全成坤（高麗大）、金華榮（水原科学大）、崔殷景（東亜大）、黄永熙（漢陽サイバー大）、方允炯（水原大）、姜炅完（梨花女大）、孫榮奭（済州大）、金曦泳（同徳女大）、河在必（韓国外大）

●以上の三七名で、現在、韓国各地の国立・私立大学の日本関係の学科に勤務。

二．歴史

二〇〇〇年頃から活動し、林八龍（韓國外大）、鄭秀賢（東國大）、李漢燮（高麗大）、任榮哲（中央大）が会長を歴任、当時幹事は許晃會（한밭大）。現在は、鄭相哲（韓国外大）が会長を務める。

三．活動

二〇〇五年十二月、大阪大学「真田信治先生の還暦記念会」をソウルロッテホテルにて開催。

二〇一〇年十月、大阪大学「前田富祺先生を囲む会」を明洞の進士宅にて開催。

二〇一一年九月、大阪大学「渋谷勝己先生を囲む会」を明洞の進士宅にて開催。

二〇一二年十二月、大阪大学卒（横浜国立大学）「金澤裕之先生を囲む会」を鐘路の汝自灣にて開催。

各会に韓国と日本の仲間と弟子が多く参加し、思い出とこれからの発展を話し合う。

四．会員の近況

●出版

石井正彦・孫栄奭（そんよんそく）『マルチメディア・コーパス言語学』（二〇一三）大阪大学出版会

●就職

金曦泳（二〇一一年博士取得）が二〇一三年三月から、同徳女大に就職。

文責　黄永熙（漢陽サイバー大学）

特集

世界とつながる文学部・文学研究科 ◆同窓生からのお便り◆

フランスと日本をつなぐ

代田　智恵子

私がフランスに来たのは、今から七年前の二〇〇六年八月です。それまでは、大阪大学を卒業してから日本で仕事をしていました。学部でフランス文学を専攻していたこともあり、できればフランス語が活かせる仕事をと思い、ホテルや語学学校、翻訳会社に勤めたり、フリーで国際イベントの事務局や通訳ガイドなどもしていましたが、日本で語学を活かした仕事というと、どうしても英語がメインになりがちです。そこで、会議通訳を目指して、フランス語をブラッシュアップするべく、パリのソルボンヌ大学の語学研修に参加しました。ところが、そのとき、通訳という他人の言葉を伝える仕事に興味がなくなったこと、そして、フランス人に日本語について話す機会があったことなどもあり、一転、日本語教師を目指すことになりました。帰国後、日本語学校の教師養成講座を終了し、非常勤で教える傍ら、再び大阪大学の日本語教育学講座（当時）の修士（博士前期）課程に戻りました。その後、博士（後期）課程を単位取得退学し、佐賀大学の留学生センターに就職しました。しかし、就職後は、博士課程在学中に手がけていた論文がほとんど進まず、課程博士取得の期限も過ぎてしまいました。また、修士では、フランス語を活かして、フランス語母語話者の日本語習得というテーマで研究していたのですが、日本在住のフランス人学習者が少なく、このテーマで研究を続けることは難しくなっていました。そこで、まずフランスで博士論文を終えることを目的として、佐賀大学を辞し、パリ第三大学の博士課程に入学したというわけです。それから六年目の昨年十二月、ようやく博士論文を終えることができました。この間、パリの語学学校やレンヌ第二大学で日本語を教えていましたが、昨年九月からは、ボルドー第三大学で講師をしています。講師といっても契約なので、このままフランスで仕事ができるかどうかわかりませんが、これからも大阪大学で学んだフランス語と日本語の両方が活かせる教育・研究を続けていきたいと思っています。

博士論文の口頭試問にて

しろた・ちえこ
1982年大阪大学文学部（フランス文学専攻）卒業、1996年大阪大学文学研究科（日本学専攻）博士前期課程修了、2000年同博士後期課程単位取得退学、2012年パリ第3大学博士課程修了（言語学博士）、2000年～2006年佐賀大学留学生センター助教授、2010年～2012年レンヌ第2大学日本語科ATER、2012年～現在ボルドー第3大学日本語科講師。

アメリカでインドの美術史を教えています

島田　明

私は一九八八年に文学部美学科美術史第一講座を卒業した後、一九九八年まで大学院に在籍し、その後二〇〇三年まで美術史講座の助手を勤めました。大学院と助手時代にインドとイギリスに二度留学しましたが、その期間を除いても十五年近く待兼山に通っていたことになります。今でもたまに図書館や研究室に寄らせていただくことがありますが、新築された経済学部や法学部の建物に囲まれて、まったく変わらない姿で建っている美学棟を見ると、なんだかほっとします（もう建て替えてもよいのではとも思いますが）。

二〇〇七年の秋から、マンハッタンから車で九十分ほど北に上ったところにあるニューパルツという町で、古代インド史を教えています。所属するニューヨーク州立大は州全体に五十校ほどを数える大規模な教育研究機関で、州都のオールバニー校など博士課程まで備えた学校もありますが、ニューパルツ校は少人数の学部教育に重点を置く、典型的なリベラルアーツ・カレッジです。ニューヨークで教えているというと大都会にいると思われがちですが、大学の周りは岩登りで有名な山とリンゴ畑と森が広がっており、自宅の庭には鹿や兎やリスがやってきます。こちらに来ることになったのは、ロンドンで博士課程を終えてから職探しをしていた際、たまたま出たインド史の公募に通ったからという、まったくの偶然によるものです。インド人でもアメリカ人でもない私が、インドから遠く離れたアメリカの片田舎で、古代インドについて英語で教えるという状況に最初はとまどいましたが、親切な同僚と、拙い私の英語を面白がってくれる学生達に助けられながら、なんとかやっています。アメリカの学部教育はかつて阪大にも存在した教養部に似ており、文系、理系を問わず幅広く学べるという点に特徴があります。受講する学生の興味や専攻は様々なので、あまり専門的な内容は教えられませんが、学生はとにかく議論好きで、活発に質問してくれるのが楽しいです。

インドの友人たちと

しまだ・あきら
1998年大阪大学大学院文学研究科博士課程（芸術史専攻）単位取得退学、2006年ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）博士課程修了（PhD）、2007年よりニューヨーク州立大学ニューパルツ校歴史学部助教授。

大阪大学文学部と私

ロラン・ネスプルス

大阪大学との出会いは二〇〇三年まで遡る。日本語の学士号と考古学の修士号を取得したばかりで、博士後期課程をどうするか（研究テーマは古代以前の政治権力の発展や複合化、国家形成過程など）は戸惑うところであった。知り合いであった元奈良文化研究所所長の田中琢に相談し、日本原始考古学で有名な都出比呂志教授と福永伸哉教授の元で研究を進めることになった。

二〇〇四年四月に国費研究生として入学し、大阪大学文学での四年間の留学期間が始まった。翌年の二月に博士後期課程入学試験に合格すると今度は正式な「阪大生」となった。その後大阪大学考古学研究室のおかげで、様々な研究テーマに触れることができ、二〇〇七年の秋に博士論文をフランスに提出することに成功した。二〇〇八年三月から、フランス外務省ポストドック研究者として秋までいるはずであったが、フランス国立東洋言語文明学院で日本史のポストができて、九月から着任のためパリに戻ることになった。やがて翌年の二〇〇九年九月からは正式的に准教授（日本原史・古代史前期）として勤めることになった。

ヨーロッパでは日本のフィールドを対象にして考古学の比較研究をする研究者は少ない。日本での発掘調査に参加できるヨーロッパ人もまた稀で、大阪大学と日本文部科学省のおかげでできた経験があったからこそ早くポストを得ることができたといっても過言ではない。二〇〇四年から多くの日本人考古学研究者と接触することができ、日本考古学の現状を目の前にして考古学、文化財や社会との関係の側面も大変勉強になったと感じる。

日本の原始時代や考古学研究史、埋葬文化財などをフランス、スイス、イタリアで紹介することを心がけてきたが、今度もさらに、フランスと日本の考古学研究や文化財の現状を一緒に考えていくつもりだ。外務省への出向依頼を出した結果二〇一二年九月から東京日仏会館研究員として派遣され、これから最短二年間日本に滞在するようになった。これからも大阪大学考古学研究室や知り合った多くの日本の考古学者同士達と共に日仏交流を広げていきたい。

Laurent NESPOULOUS
1997年トルーズ大学歴史学部学士号、2000年フランス国立東洋言語文明学院（INALCO）日本学部学士号、2001年パリ第1大考古学学部学士号、2007年INALCO・パリ第1大（考古学専攻）博士号、2008年大阪大学博士後期課程（考古学専攻）満期退学、2008年INALCO教授（原始・古代史講座）、2012年外務省出向研究員（東京日仏会館）。

フランクフルトの領事館で充実した毎日

石原　丈嗣

二〇〇九年春、文学研究科修了後、ドイツ語専門職として外務省に入省しました。現在は、在フランクフルト日本国総領事館で副領事として勤務しております。

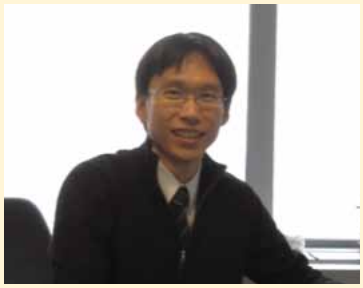
主担当は広報文化であり、各種日本文化の催し物に関してドイツ人の主催者側と協力をして仕事をしています。その他に日本文化紹介事業として、管轄三州の高校を回って日本を紹介する学校訪問も行っています。

総領事館の職員は少人数なので、政務、領事、儀典も兼務しております。政務の仕事では、管轄三州の政治情勢を逐次本省に報告したり、近隣諸国との諸問題に関して日本の立場を正しく理解してもらうために、有力な新聞社記者に働きかけを行っています。

領事の仕事は通常の旅券業務から邦人援護まで様々ですが、私は主に邦人援護のお手伝いを兼務でしています。あいにくフランクフルトはスリが多発し、旅行中に旅券や現金を盗まれるケースが相次いでいるのですが、そういった方々の相談に乗ったり、急病になった旅行者のために現地の病院で色々とお手伝いすることがあります。儀典の仕事では、総領事のアポイント取りや、会食設定、右の報告業務の他に、年に一回行う天皇誕生日レセプション開催に向けての仕事があります。

総領事館での仕事はとにかくドイツ語を駆使せざるを得ません。邦人援護や国会議員の案内等は日常会話程度でも対応できるのですが、政務での情報収集の作業では高度なドイツ語力が要求されます。また、日常の業務はスピードも要求され、仕事を通じて語学力を伸ばせることは大きな魅力です。

しかし、今こうして振り返ると、語学を含め厳しい業務に耐えうるのも、阪大独文で鍛えられたお陰だと思います。阪大独文では三谷教授及び林元教授に大変お世話になりました。先生方の講義・演習では質・量ともに毎回かなりの勉強量を要求されましたが、あの時の厳しい勉強が今の仕事にも生きているとつくづく思いだされます。



いしはら・たけつぐ
1982年大阪生まれ、30歳。2001年、大阪府立北野高校卒業。2006年、大阪外国語大学ドイツ語学科卒業。2009年、大阪大学大学院文学研究科ドイツ文学修了。2009年、外務省入省。2012年より、在フランクフルト日本国総領事館勤務。

研究室今昔

中国哲学

名誉教授加地伸行先生の喜寿をお祝いする会（平成24年4月、大阪大学中之島センター）

「常」と「変」。二つがある。

まず変わらぬこと。中国古典を精読する少数精鋭の集団であること。全メンバーで十名前後というのは古今を貫く伝統である。また懐徳堂の研究や事業を宿命と受け止めていること。初代・木村英一教授（教授在職一九四九～六六）、二代・森三樹三郎教授（一九六七～七一）、三代・日原利国教授（一九七三～八二）、四代・加地伸行教授（一九八四～九五）。いずれも中国哲学の第一線で活躍されるとともに、大阪大学懐徳堂文庫の研究や懐徳堂記念会の事業に献身的に取り組まれた。そして、第五代教授の湯浅（二〇〇〇～）もこの伝統の継承に努めている。中国古典研究と懐徳堂、それが研究室活動の両輪である。

一方、変わりゆくものもある。女子学生が半数を占めるようになったこと。研究室にずらりとパソコンが並んでいること。研究室ホームページやWEB懐徳堂など、電子情報を積極的に発信していること。そして何より、新出簡牘が研究対象に加わったこと。今世紀に入ってから、中国では、考古学的発見や盗掘により、竹簡や木簡の発見が相次ぎ、中国古典学の様相を一変させつつある。演習でも、伝世文献に加えて、これら簡牘に記された古代文献を取り上げている。今や本研究室は、日本における出土文献研究の拠点として認知されるに至った。

「常」と「変」。二つの要素を織り込みながら、研究室の歴史は刻まれていく。

（湯浅邦弘）

西洋史学

一九四九年に文学部が設立されたと同時に、史学科の中に西洋史学専攻が誕生した。当初は、ギリシア史の村田数之亮、アメリカ史の今津晃、助手の衣笠茂の三人体制で、教養部の支援を受けて教育が行われていた。発足した時期は、外国文献の入手が困難な時代であり、創設時の苦労は大変であったと想像できる。

一九六四年には、西洋近世史講座の設立とともに、教授・助教授・助手の六人体制となり、教育研究は充実し、その領域がカバーする範囲は、欧米からその植民地を含む広い領域に拡大しはじめた。学生の数も各学年五人程度に増加し、一九七〇年代半ばになると、さらにその数が倍増した。一九九四年には、教養部廃止にともない、堀井敏夫と竹中亨が合流し、教員も増加したが、一九九八年の大学院重点化の影響もあり、学部生と大学院生の数もいっそう増加し、教員と学生を合わせて構成員が百人近くになる年もあった。

この重点化が、西洋史研究室の現在の体制を基本的に規定している。大学院では文化形態論専攻の西洋史学専門分野として、学部では西洋史学専修として教育を行っている。たしかに、パソコン室が生まれてハイテク化が進んだこと、院生の比重が高まったことを除けば、研究室生活の中身は以前と大きくは変わっていない。

そうは言っても、研究面では、一九九六年から毎年「ワークショップ西洋史」を開催し、二〇〇三年には『パブリック・ヒストリー』を創刊したことは、特筆に値するかもしれない。また、国際化も進展しており、海外の研究者が毎年講演を行っている。さらに、地球規模での西洋文明の歴史を、研究・教育の対象とするようになっており、設立当初では想像もできなかったほど、その視野は地球規模に広がっている。

（藤川隆男）

2012年5月のワークショップ西洋史

第4回大阪大学文学部・文学研究科同窓会講座のご案内

岩佐寿弥　Iwasa Hisaya

1934年生まれ、映画作家・テレビディレクター。1959年岩波映画入社、羽仁進、土本典昭、黒木和雄などの助監督を経て、1964年フリーに。「ねじ式映画～私は女優?～」（1969年）「叛軍 No.4」（1972年）「眠れ蜜」（1976年）などアヴァンギャルドな作品を連作。その後テレビのディレクターとして「プチト・アナコ～ロダンが愛した旅芸人花子～」など海外取材による作品多数を演出。2002年にチベットの老女を主人公にした映画「モゥモチェンガ」を監督。2005年「あの夏、少年はいた」（川口汐子共著）を出版、この本を原作としたドキュメンタリードラマ「あの夏～60年目の恋文～」（NHK）が2006年放映される。

5月11日(土)13時～　大阪大学文学部本館2F大会議室

映画「オロ」上映会+岩佐寿弥監督講演会

●おちゃめな少年オロとアバンギャルドな老監督が紡ぎ出す、
チベット望郷の詩を鑑賞し、監督とともに語らってみませんか。

●お申し込み方法：

氏名、卒業（修了）年次、専攻を明記の上、
メール又は葉書で下記連絡先までお申し込みください。
※締め切りは4月25日です。

メール：dousoukai@let.osaka-u.ac.jp
住　所：〒560-8532　大阪府豊中市待兼山町1-5
大阪大学文学部・文学研究科同窓会宛

※当日のタイムスケジュールは、以下を予定しています。
・13時開場
・13時30分 ～ 15時30分　「オロ」上映
・（休憩）
・16時 ～ 17時　監督の岩佐寿弥氏によるご講演、懇談

第3回大阪大学文学部・文学研究科同窓会講座についてのご報告

平成24年5月12日（土）に、「「大」大阪モダン建築めぐり」と題しまして、第3回大阪大学文学部・文学研究科同窓会講座を開催いたしました。

桑木野先生（美術史学）のご案内のもと、綿業会館から中之島図書館までを歩きました。

綿業会館での見学・昼食の後、旧大阪教育生命保険（明治45年竣工）・愛珠幼稚園（明治34年竣工）・除痘館記念資料室などを経て、適塾へ。

その後、大阪市中央公会堂や中之島図書館の歴史や建築様式などについて、桑木野先生の解説がありました。

様々な年齢層の同窓生の方がご参加くださり、非常に充実した見学会となりました。

平成24年度第1回就活サポート講座についてのご報告

去る平成24年4月26日（木）に、平成24年度第1回就活サポート講座として、文学部教育支援室主催、本同窓会共催で、『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』の著者である山田真哉氏をお招きしてご講演いただきました。

山田氏は本学文学部日本史学を卒業され、現在、公認会計士・税理士をなさっています。

山田氏の就職活動についてや、会計士になるまでについて、就職活動中の学生やこれから就職活動に入る学生に対して、1時間程ご講演いただきました。

学生達とやりとりをしながらの講演で、学生たちはこれからの就職活動について意欲を沸き立たせられていたようでした。

今後とも本同窓会では支援を続けていく予定です。ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆「教育ゆめ基金」のご報告◆

いつでも、お心のままにご寄附いただければ幸いです

同封の「教育ゆめ基金」案内をご覧ください

文学部創立60周年（平成20年）の折に創設しました「教育ゆめ基金」は、文学部・文学研究科の教育活動を支援していただくための基金です。この基金は、人文学教育の国際化、学生の海外留学支援、留学生の支援、優秀な学生への奨学金等、もっぱら優秀な人材を育成するための教育助成を目的としています。平成24年度は同窓生ならびに教職員の皆様より、総計80万円ほどのご寄付をいただきました。ご厚情に心よりお礼申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度「教育ゆめ基金」寄付者リスト

粟根　功雄	大塚　杏未	後藤　昭夫	西居　淳子	桝本　裕之	山本　清司
石原　実	大村　睦子	小林　正人	肥田　宏一	水越　久哉	吉田　高重
岩崎　治男	岡田　禎之	里見　軍之	福島　正彦	森田　美咲	和田　章男
上山　泰	岸　彰則	志水紀代子	星野　佳織	八木　啓俊	渡辺　義嗣
浦崎なぎさ	桑木野幸司	永田　靖	細川富美恵	矢羽野隆男	ほか
江川　温	小谷晋一郎	中村　加津	前田　高志	山上義太郎	

（敬称略・五十音順）

◆「教育ゆめ基金」の支出（平成24年度）

・エラスムス・ムンドゥス・プログラム留学生のための情報環境整備：約64,842円

（平成25年3月10日現在の残額：3,834,834円）

※エラスムス・ムンドゥス・プログラムとは、国際的な教育をおこなうためにEUで作られた制度で、大阪大学文学研究科は2008年から「域外パートナー」としてこれに参加し、学生の交換留学や教員の研究交流をすすめています。

事務局便り

●お知らせ

◇『文学部・文学研究科　卒業生・修了生名簿』（二〇一二年版）について

二〇一二年三月刊行の『大阪大学文学部・文学研究科卒業生・修了生名簿』ご購入を随時承っております。販価（五千円）＋送料（百六十円）でお送りいたします。ただし名簿のご購入は同窓会会員の方に限定しておりますので、ご入会がお済みでない同窓生の方には入会手続きをお願いしております。あらかじめご了承下さい。なお、同窓会終身会費（一万円）をお支払いいただいた方には一冊謹呈しております。振込用紙通信欄に名簿希望の旨をお書き添え下さい。

ご購入希望の場合は以下の郵便振替口座に所定の金額をお振込み下さい。ご入金確認後、発送させていただきます。ご購入に際しご質問等ございましたら同窓会事務局まで遠慮なくお問い合わせ下さい。

【名簿、終身会費のお支払い】

口座番号　00940-1-79043

加入者名　大阪大学文学部同窓会事務局

＊お手数ですが、通信欄に①卒業・修了年、②専攻・専修名をご記入下さい。

●お願い

◆住所変更について

住所変更・勤務先変更等ございましたら、必ず同窓会事務局までご一報下さい。名簿への住所、電話番号等の記載拒否を希望される場合は、その旨あわせてお知らせ下さい。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

◆事務局メンバー

事務局長：和田　章男（S五五）
総務：入江　幸男（S五一）
岡田　禎之（S六二）
会計：西田有利子
企画：村田　路人（S五二）
市　大樹（H七）
広報：三谷　研爾（S五九）
岡田　裕成（S六一）
事務局補佐：宮川　真弥（H二二）
事務局補佐（Web担当）：
松岡　佳世（H二二）

なお、平成二五年度より左記の体制に移ります。

事務局長：村田　路人（S五二）
総務：岡田　禎之（S六二）
高木　千恵（H一〇）
会計：西田有利子
企画：市　大樹（H七）
中尾　薫（H一五）
広報：岡田　裕成（S六一）
舟場　保之（S六一）
事務局補佐：福村　一弥（H二四）
事務局補佐（Web担当）：
鈴木　寛和（学四）

●住所…〒560-8532　豊中市待兼山町一番五号
●ホームページアドレス…http://www.let.osaka-u.ac.jp/dousou/
●事務局メールアドレス…dousoukai@let.osaka-u.ac.jp